



第51号

医療法人財団 中山会

八王子消化器病院

消化器病専門医療機関・東京女子医大関連病院

日本医療機能評価機構認定病院

〒192-0903 東京都八王子市万町177-3

TEL: 042-626-5111

www.八王子消化器病院.com

制作 (株)教育広報社



がん克服に向けて

2006年6月16日 それから

八王子消化器病院 副院長 小池 伸定

梅雨明けを待ちかねていたかのよう 木々の緑が輝き溢れる夏の始まりです。今 年の夏は猛暑が予想され、厳重な熱中症対 策が叫ばれるなか、8月にはブラジルのリオデジヤネイロでオリンピックが開催され ますが、日本選手の活躍に今から期待で胸 が躍ります。球界では、本稿執筆中の6月 16日にイチロー選手が日米通算4,257安打 の偉業を成し遂げました。28年間積み重ねた記録に只々敬服するばかりです。皆様は 彼が打席に立つ前の一連の動作を目につかれたことがあります。いつも決まった動作を繰り返しています。このように意識的に同じ動作をする「スポーツ心理学」では「プレパフォーマンス・ルーティン」と呼び、安定した結果を生むことに寄与しているようです。更に彼は、起床、食事、睡眠等も決まった時間に行い、ルーティン化しています。成し遂げた記録も偉大ですが、この間の健康管理も並大抵の努力ではないでしよう。

◆がん対策基本法

それでは、私たちは日常生活の中でどのような健康管理をすれば良いのでしょうか。食生活の偏りを始めとして過度の飲酒、喫煙等は身体の負担になります。日本人の死因の1位は悪性新生物(がん)、2位は心疾

患そして3位は脳血管障害です。現在、国民の2人が、がんに罹患し3人に1人が、がんで亡くなる時代となり、がんは国民病とさえ言われています。そのような状況のなか、10年前の2006年6月16日にがんの予防・早期発見のための「がん対策基本法」が成立しました。これは、ある脾がん患者のがん治療におけるドラッグ・ラグ(新薬承認の遅延)の訴えから始まりました。当時、欧米では脾がん治療にゲムシタビンという薬が使用されていましたが、我が国では同薬は肺がんの治療のみに限定されていました。欧米では標準治療であるものが、我が国では認可されず治療を受けられないというタイム・ラグ(ドラッグ・ラグ)があつたのです。そこで国内でも国際標準のがん治療を受けられるようにならなければ良いか、「検査はどの程度の間隔で受けられる良いか」等の患者様からの質問に的確にお答えし、その成果を評価できるようになるのは、実はこれからなのです。

当院は、全がん患者の40%強を占める食道、胃、大腸、肝臓、胆嚢、脾臓がんを診断・治療することができる消化器疾患の専門施設として、これからも地域の皆様の健康管理に注力し、がんの予防と治療に貢献していきます。

患者本位のがん治療が始まったのです。

◆がん検診率50%へ

同法では、がんの早期発見のための検診受診率の向上も大切な目標の1つです。厚労省の定める検診には、主要5大がんである「胃がん」「大腸がん」「肺がん」「子宮がん」「乳がん」が含まれます。胃がん検診は、バリウムによるレントゲン検査か内視鏡検査であり、大腸がん検診は便潜血検査が広く行われています。2007年の胃がん、大腸がんの受診率は、それぞれ33.8%、27.9%でしたが、2012年には45.8%、41.4%と上昇しています。厚労省の掲げる目標は、受診率50%ですので達成まであと一歩です。

この早期発見の努力に加えて、本年1月から全ての病院を対象にした「全国がん登録」

が開始されました。本制度は、がんの予防策や治療技術の向上を目的に全国でがんと

診断された人のデータを集計・分析・管理する仕組みです。罹患者数だけでなく、病期(ステージ)も併せて把握できれば、がん予防・検診の効果が得られているか、地域の医療機関が充足しているかを判断できるようになります。

「がんを予防するために何に気をつければ良いか」「検査はどの程度の間隔で受けられれば良いか」等の患者様からの質問に的確にお答えし、その成果を評価できるようになるのは、実はこれからなのです。

もっと知りたい!
身体
病気
治療
のコト

超音波内視鏡検査(EUS)について

八王子消化器病院 消化器内科 医師 貝瀬 智子

八王子消化器病院ニュース

超音波内視鏡(EUS)は、内視鏡の先端に超音波検査装置が搭載された内視鏡です。これにより消化管の中から超音波をあて、周囲の臓器（主に脾臓、胆嚢、胆管等）や消化管壁、血管、リンパ節の診断を行います。体表からの腹部超音波検査とは異なり、胃や腸内の空気、腹壁、腹腔の脂肪、骨が検査の妨げにならず目的の病変を近くから観察できるため、鮮明な超音波観察が可能となり、詳細な情報を得ることができます。また、通常の内視鏡検査では消化管の表面しか観察できませんが、超音波を用いることによって消化管腫瘍の内部組織の観察、潰瘍や腫瘍の深達度（浸潤の深さ）、周囲臓器との位置関係、粘膜下腫瘍の位置や大きさなどを知ることができます。

《検査前準備》

検査前日の食事制限はなく、検査当日の朝食は朝8時までに済ませていただけます。当日の朝の服薬は可能で、血压・心臓・喘息の薬は食事に関係なくいつも通りお飲みいただき、抗血小板薬や抗凝固薬（血流を良くする薬）の休薬も必要ありません。



(超音波内視鏡(EUS)検査)



(超音波内視鏡の先端)

《意識下鎮静法》

超音波内視鏡は、上部消化管内視鏡に比べて先端が太く硬いため内視鏡が喉を通過する際の不快感は強くなります。また、検査時間は、約10～30分と長くなることから、当院では患者様の苦痛を和らげる目的で鎮静剤を使用し眠った状態で検査を行うので不快を感じることは少ないですが、鎮静剤が使用できない方や効果が乏しい方もおられます。また、食道や胃の手術を受けられたことのある方は、EUS検査ができない場合もあります。

《EUS検査の適応疾患》
食道、胃、十二指腸、大腸、脾臓、胆道等の腫瘍性病変（良・悪性）
胆石・総胆管結石・慢性脾炎等
当院では、主に胆道・脾臓疾患に対する精密検査として行っています。

特に、腹部超音波検査やCT・MRI検査で疑われた脾嚢胞性病変（脾管内乳頭粘液性腫瘍、漿液性嚢胞腫瘍、粘液性嚢胞腫瘍等）や脾腫瘍性病変（脾癌や脾神経内分泌腫瘍等）、胆道腫瘍（胆嚢・胆管癌や胆嚢ポリープ）の良悪性診断、質的診断、周囲臓器や血管との浸潤度を検査しています。以前は、脾癌を疑う病変や脾管狭窄に対しては、内視鏡的逆行性脾管造影（ERP）を行っていました。しかし、急性脾炎を合併することがあるため、検査に際しては入院が必要でした。EUSはERPに比べて検査後脾炎の可能性は低いため、外来で行えます。なお、脾嚢胞性

《最後に》

脾癌は、癌疾患の中でも5年生存率が極めて低い疾患であり、早期診断・治療が重要となります。そして、EUSは、その精密検査の1つとして位置づけられています。これからも患者様の健康の手助けになれるようにとの心構えを持って検査を行つて参ります。

《合併症（検査によるリスク）》
主に消化管や咽頭の出血、消化管穿孔等
当院では、今までこれらの合併症が発生したことはありませんが、消化管の変形や検査時に身体が大きく動いてしまった場合は、合併症の可能性が高まります。その場合は、安全のため検査を途中で中止することがあります。

《EUSを用いた最新の検査・治療方法》
平成22年4月から超音波内視鏡ガイド下穿刺（EUS-FNA）が保険適応となりました。これにより従来、確定診断が困難であった病変に対し、超音波内視鏡を用いて消化管から穿刺し病変の一部組織を採取することで病理結果から質的診断をすることになりました。また、胆管疾患による胆管狭窄に伴う閉塞性黄疸に対する最新の治療法としてEUS-FNAを用いた超音波内視鏡下胆道ドレナージがあります。これらは、新たに導入されたばかりの検査・治療方法で、消化器内視鏡分野の中でも非常に高度な技術を要します。そのため大学病院など一部の高次医療機関で行われるに留まり、当院では行つておりません。これらの検査・治療が必要または希望される患者様には、該当の医療機関をご紹介させていただいております。

病変の中には、悪性化（癌化）の可能性がある腫瘍性病変があることから、EUS検査が必要となり、悪性化所見が認められるとき手術を検討することもあります。

ドクタープロフィール 2016

 <p>理事長 鈴木 衛 (すずき まもる)</p> <p>専門: ◎消化器外科 ◎大腸外科</p> <p>東京女子医科大学 消化器外科元講師 昭和51年 三重大学医学部卒業</p>	 <p>病院長 原田 信比古 (はらだ のぶひこ)</p> <p>専門: ◎消化器外科 ◎肝・胆・脾外科</p> <p>東京女子医科大学 消化器外科元派遣助教授 昭和60年 宮崎医科大学卒業</p>
 <p>副院長 小池 伸定 (こいけ のぶただ)</p> <p>専門: ◎消化器外科 ◎肝・胆・脾外科</p> <p>東京女子医科大学 消化器外科元助教 平成6年 徳島大学医学部卒業</p>	 <p>顧問 林 恒男 (はやし つねお)</p> <p>専門: ◎消化器外科 ◎食道外科 分野: ◎消化器内視鏡検査・治療</p> <p>東京女子医科大学 消化器外科元講師 昭和44年 千葉大学医学部卒業</p>
 <p>顧問 今泉 俊秀 (いまいすみ としひで)</p> <p>専門: ◎消化器外科 ◎肝・胆・脾外科</p> <p>東海大学 消化器外科学元教授/東海大学医学部付属東京病院 外科客員教授/聖マリアンナ医科大学客員教授 昭和45年 札幌医科大学医学部卒業</p>	 <p>顧問 武雄 康悦 (たけお やすよし)</p> <p>専門: ◎消化器内科</p> <p>東京女子医科大学 消化器内科元助手 昭和60年 東邦大学医学部卒業</p>
 <p>外科医長 梶 理史 (かじ さとし)</p> <p>専門: ◎消化器外科 ◎肝・胆・脾外科 分野: ◎緩和ケア</p> <p>東京女子医科大学 消化器外科元助手 平成8年 福井医科大学卒業</p>	 <p>外科医長 斎田 真 (さいだ しん)</p> <p>専門: ◎消化器外科 ◎腹腔鏡外科 分野: ◎がん化学療法</p> <p>東京女子医科大学 消化器外科助教 平成11年 札幌医科大学卒業</p>
 <p>内科医長 森下 慶一 (もりした けいいち)</p> <p>専門: ◎消化器内科 分野: ◎消化器内視鏡的診断処置</p> <p>東京女子医科大学 消化器内科助教 平成12年 帝京大学医学部卒業</p>	 <p>医師 福光 寛 (ふくみつ ひろし)</p> <p>専門: ◎消化器外科 ◎肝・胆・脾外科</p> <p>東海大学 消化器外科助教 平成11年 東海大学医学部卒業</p>
 <p>医師 尾崎 雄飛 (おざき ゆうひ)</p> <p>専門: ◎消化器外科</p> <p>東北大学医学部 第二外科元医員 平成15年 埼玉医科大学医学部卒業</p>	 <p>医師 斎藤 元伸 (さいとう もとのぶ)</p> <p>専門: ◎消化器外科</p> <p>東京女子医科大学 第二外科助教 平成18年 北里大学医学部卒業</p>
 <p>医師 貝瀬 智子 (かいせ ともこ)</p> <p>専門: ◎消化器内科</p> <p>東京女子医科大学 消化器内科助教 平成19年 東京女子医科大学医学部卒業</p>	 <p>医師 宮方 千春 (みやかた ちはる)</p> <p>専門: ◎消化器内科</p> <p>東京女子医科大学 消化器内科助教 平成19年 東京女子医科大学医学部卒業</p>

●化学療法外来●

医師: 川上 和之

東京女子医科大学 化学療法
緩和ケア科准教授
昭和62年 金沢大学医学部卒業

●生活習慣病外来● (リウマチ・痛風・膠原病)

医師: 高木 香恵

東京女子医科大学 膠原病リウマチ
痛風センター講師
平成4年 東京女子医科大学卒業

医師: 小田桐 玲子

東京女子医科大学 糖尿病センター
元講師/小田桐医院 院長
昭和39年 東京女子医科大学卒業

●糖尿病外来●

医師: 雨宮 穎子

東京女子医科大学 糖尿病センター元講師
昭和44年 東京女子医科大学卒業/
同48年 大学院卒業

想うこと

おもしろうて やがて寂しき 花火かな
詠み人知らず

今年もまた、日本の夏の代表的風物詩のひとつ「花火」の季節がやってきました。

我国における花火の歴史では、1613年に徳川家康が見たという記録があります。当時は、魂の鎮魂という神事的色彩が強く、今日のような大衆娯楽としての花火は、8代将軍吉宗の時代に隅田川で水神祭を行った際に、両国橋周辺の料理屋が幕府の許可



により花火を上げたことが由来とされています。
隅田川の花火は、毎年7月の最終土曜日とされ、
雨天などの場合は翌日に延期となっていますが、今
年は31日(日)が都知事選挙のため順延がなく、30
日(土)のみの「一発勝負」となってしまいました。

ドドーン パア～ 玉屋あ 鍵屋あ
それにつけても、どこまでも人騒がせな
前都知事ですな～

理事 久野久夫